

2021年2月2日

各 位

三井住友信託銀行株式会社

**第17回LCA日本フォーラム表彰**  
**LCA日本フォーラム会長賞を受賞**

三井住友信託銀行株式会社(取締役社長:橋本 勝、以下「当社」)は、LCA日本フォーラム<sup>(※1)</sup>が実施する第17回LCA日本フォーラム表彰において、当社のポジティブ・インパクト・ファイナンス(以下、「PIF」)が、『LCA日本フォーラム会長賞』を受賞しましたのでお知らせします。

LCA日本フォーラム表彰(以下、「本表彰」)は、LCA(ライフサイクルアセスメント)と環境効率に係わる優れた活動および製品・サービスを表彰することにより、LCA手法を広く普及・定着させ、環境効率向上による技術革新を追求し、わが国の産業の発展に資することを目的としています。今回で17回目となる本表彰を、金融機関が受賞するのは、初めてのことです。

PIFは、国連環境計画金融イニシアティブ(UNEP FI)<sup>(※2)</sup>のポジティブ・インパクト金融原則<sup>(※3)</sup>に基づく融資契約であり、当社は契約を締結する際に、企業の活動、製品、サービスがSDGsの3つの側面である環境・社会・経済に及ぼすインパクト(ポジティブな影響とネガティブな影響)を、事業セクター、事業エリア、サプライチェーンにわたって包括的に分析してインパクトの創出を継続的に支援しています。製品等のインパクトを分析する際には、原材料の採取から加工、製造、物流、使用、廃棄に至るライフサイクル全体でのインパクトを対象としています。このように融資の意思決定において、LCAの考え方や手法を活用するライフサイクル思考が、金融業界において意義のある取り組みとして認められ、『LCA日本フォーラム会長賞』を受賞しました。

融資の意思決定にインパクト評価を組み込むことを要請する「責任銀行原則」の署名機関である三井住友トラスト・ホールディングスの中核子会社として、当社は国内外の金融機関へのPIFの普及を通して、LCAのより一層の利用促進に努めるとともに、PIFをはじめ、科学的根拠に基づくインパクト評価を活用し、SDGsの達成に貢献する技術、製品、サービスの社会実装に資するサステナブル・ファイナンスに積極的に取り組んでまいります。

(※1) LCA日本フォーラム(JLCA)

LCA(ライフサイクルアセスメント)とは、製品やサービスの原料調達から、生産・流通・廃棄・リサイクルにいたるまでの一連のライフサイクルにおける環境負荷を定量的に算定するための手法です。LCA日本フォーラムは、わが国におけるライフサイクルアセスメント(LCA)に係わる産業界、学界、国公立研究機関の関係者が集うプラットフォームです。国内外の動向を踏まえ、LCA、環境効率に関する調査・研究活動、情報交流促進活動、啓発・普及活動を行うことにより、わが国におけるこれらの普及と発展を図るとともに、持続可能経済社会の実現を目指しています。

(※2) 国連環境計画金融イニシアティブ(UNEP FI)

国連環境計画(UNEP)は、1972年に「人間環境宣言」及び「環境国際行動計画」の実行機関として設立された国連の補助機関です。UNEP FIは、UNEPと200以上の世界の金融機関による広範で緊密なパートナーシップであり、1992年の設立以来、金融機関、政策・規制当局と協調し、経済的発展とESG(環境・社会・企業統治)への配慮を統合した金融システムへの転換を進めています。

(※3) ポジティブ・インパクト金融原則

UNEP FIが2017年1月に策定した、SDGs(持続可能な開発目標)の達成に向けた金融の枠組です。企業がSDGsの達成への貢献をKPIで開示し、銀行はそのプラスの影響を評価して資金提供を行うことにより、資金提供先企業によるプラスの影響の増大、マイナスの影響の低減の努力を導くものです。融資を実行する銀行は、責任ある金融機関として、指標をモニタリングすることによって、インパクトが継続していることを確認します。

以上